

赤 + 字

赤十字の人道活動は皆
日本赤十字社活動支援

NEWS in 徳島

赤十字の人道活動は皆様方の
日本赤十字社活動支援費(日赤社費)で行われています
ご協力をお願いします

第30号
平成25年12月
発行

発行所 日本赤十字社徳島県支部
〒770-0044 徳島市庄町三丁目12番地1
TEL 088-631-6000
FAX 088-631-6100
URL <http://www2.tcn.ne.jp/~jrcawal/>



災害時 食のスペシャリスト

▲災害用炊飯袋を使った炊き出しの方法を学ぶ参加者

魔法の袋ハイゼックスで 防災力UP!

ご飯を炊いてみよう

こんにちは、みんなさん。ハイゼックスを使ってご飯を炊いてみましょう。

まず、洗ったお米と、きれいなお水をハイゼックスに入れます。

次に、空気を抜いてハイゼックスで輪ゴムをしっかりと巻りま

沸騰したお湯で30分間ゆでて、10分間蒸らします。

完成

みんなさんの地域にも金やハイゼックスを配備しています。

地域の人と一緒に炊き出し訓練をしてみましょう。

「皆様の地域での活躍を期待しています。」と認定証を交付しました。

参加者からは「地域での炊き出し訓練を通じて、地域の絆づくりと、さらなる赤十字活動への協力を呼びかけたい。」と、頼もしい意見が聞かれました。

また、東日本大震災の被災地で
炊き出し支援を行った「炊き出し
支援隊」メンバーによる活動発表や、
防災訓練での炊き出し指導を想定
したグループワークも行いました。

参加者は、災害用炊飯袋（ハイゼックス）の使用方法や説明の仕方をはじめ、災害用移動炊飯器の組み立て方法や、赤十字活動の紹介と普及を図る役割について学びました。

炊き出しサポーターは、当支部が県内に配備している133台の災害用移動炊飯器を有効に活用し、地域の防災力向上を図ることを目的として昨年度より養成しています。

供を受ける支援協定を株式会社キヨーエイ様と
締結しました。

南海トラフ巨大地震等の大規模災害が発生した際に、当支部の救護活動をはじめ、県内5つの赤十字施設の事業継続に必要な物資の提

株式会社キヨーエイ様と
災害時支援協定を締結
—民間企業との協定は初—



署名した協定書を持つ飯泉嘉門支部長（左）と埴渕一夫社長（右）

徳島県支部の国際救護員をイラクへ派遣

日本赤十字社では、紛争地にある赤十字国際委員会の戦傷外科病院で活動する医療従事者を養成するために、「北イラク・クルド地域戦傷外科実地研修」を実施しています。

赤十字国際委員会の要請で紛争地に医療スタッフを派遣する際には、紛争地での実務経験が必要となることから、この度、徳島県支部から勝占智子国際救護員（徳島赤十字病院 看護師）を同研修へ派遣しました。

イラクでの戦傷外科実地研修を振り返って 赤十字国際救護員 勝占 智子

本年4月23日から6月22日までの2ヶ月間、イラク北部のエルビルにある戦傷外科病院で、銃や爆弾、地雷などにより負傷した患者さんの看護を専門的に学んでまいりました。

イラクはイスラム圏であるため、病棟は男性・女性別々に分かれており、男性患者さんへは男性看護師がケアにあたりますが、私は主に患者さんの多い男性病棟で看護研修を行いました。

病院から3時間ほどの場所では、今なおテロ活動が続いており、一般市民である女性や子供たちが犠牲となり病院へ運ばれてくるたびに心を痛めました。

ある日、テロ被害に遭った少女が運ばれてきましたが、思わず目を背けてしまうほど顔が傷ついており、一刻を争う状況でした。

緊急手術の翌日、彼女の様子を見に行くと顔中に包帯が巻かれ、何の罪もない子供たちが被害にあっている現実を目の当たりにして、付き添っていた父親にかける言葉が見つかりませんでした。

ところが、父親は私に笑顔で「おはよう、元気かい？」と声をかけてきたのです。

このような状況でも、周りに気を配ることのできる父親の優しさと強さに、本当に心が打たれました。



紛争地への派遣に備え、イラクで実践的な戦傷看護を学んだ勝占智子救護員（右から2人目）

患者さんの痛みを知り、苦しみを取り除きたいと思って接すれば、言葉が通じなくても相手に思いが通じるということを学びました。イラクでは患者さんや現地のスタッフの優しさと笑顔に支えられ、戦傷外科の知識・技術を習得することはもちろん、改めて「看護の心」を学ぶことができました。

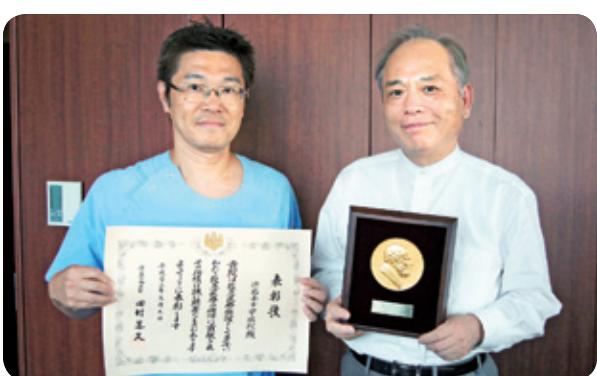
今回イラクで学んだことを、世界中で赤十字の支援を必要としている人々のために役立てていきたいと考えています。

厚生労働大臣表彰を受賞

長年にわたり地域の救急医療の確保や、救急医療対策の推進に貢献してきた団体や個人に贈られる「平成25年度 救急医療功労者 厚生労働大臣表彰」を徳島赤十字病院が受賞しました。

9月9日に厚生労働省で行われた表彰式には、福田靖救急部長が出席。表彰状を受け取った福田部長は、「今回の受賞は『断らない医療』を提供するという日浅院長の方針に基づき、職員全員が救急医療を実践してきたからこそいただくことができました。

救急部だけでなく、各科の先生方やスタッフ全員にいただいた賞だと思います。」と語りました。



断らない医療を提供する徳島赤十字病院の日浅芳一院長（右）と福田靖救急部長（左）

災害時に備えて 救護装備を強化

当支部では、東日本大震災での救護活動の経験を踏まえ、甚大な被害が予想されている南海トラフ巨大地震等に対応するため、この度災害救護装備を強化しました。



フレーム式テント

断熱効果・密閉性・遮光性に優れ、中・長期の救護所・診療所として使用します。

災害救援車両

（災害救援トラック（左）と通信指令車（右））

災害救護活動に必要なテントや毛布、医療資材等を積み込み、救護員とともに被災地へ急行します。



衛星携帯電話

災害時、携帯電話などの連絡手段が使用できない場合にも、人工衛星を介した電波を利用して情報収集を行います。



救急患者様の社会復帰を全力で支援

救急部長 福田 靖

シリーズ 徳島赤十字病院 第6回 救急部

徳島赤十字病院の診療科をご紹介するシリーズ
「徳島赤十字病院」。今回は、24時間体制で全診療科の力を結集し、県内全域からの救急患者様の治療に力を注いでいる救急部です。



医師が同乗して現地から早期の治療を行えるモービルICU

徳島赤十字病院は、災害拠点病院、高度救命救急センター、小児救急医療拠点病院として指定を受けており、救急担当医が24時間体制で急性期医療を提供し、全診療科医師と連携して救急患者様の社会復帰を全力で支援しています。

近年、徳島県の救急車による搬送は年間3万件に及び、その内5000件を越える依頼を当院で引き受けています。県内の病院・診療所からの救急要請には、治療に必要な医療器具を搭載したドクターズカー（モービルICU）に医師が同乗して救命処置を行い、遠方や緊急を要する場合等にはドクターへりによる搬送で対応しています。

また、大規模災害発生時には、発災直後から災害現場で医療活動を行うDMAT（災害派遣医療チーム）や早期から活動する医療救護班を派遣し、超急性期から慢性期まで傷病者の救護を行っています。

現在、当院の救急外来、休日夜間診療は緊急・重症の方への対応が主になっているため、診察の順番が症状により前後する場合があります。また「緊急やむを得ない事情」以外で受診される方は、「時間外選定療養費（3150円）」をいただくことになります。急性期医療を担う当院の使命をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申上げます。

みんなに元気を! 仮設住宅に広がる笑顔の輪

東日本大震災の被災者に元気を届けようと、徳島県支部の赤十字奉仕団員など17名が、6月29日から2日間、宮城県気仙沼市と多賀城市の仮設住宅で、山形・宮城・徳島の3県支部が合同で支援活動を行いました。

6月29日は気仙沼市の小原木中学校を訪問。阿波牛の牛丼や鳴門わかめたつぶりのうどんを提供するとともに、赤十字奉仕団員が阿波踊りを披露すると、仮設住宅入居者も次々と踊りました。

参加者からは、「こう

して支援に来てくれるのは久しぶりで、落ち込んでいた心が一気に晴れて最高の気分。元気いっぱいになれた。」とか「仮設の方がこれだけ参加した催しは初めて。炊き出しある美味しかったし、踊りも楽しかった。」など声が聞かれました。



阿波牛の牛丼を受け取り笑みがこぼれる仮設住宅入居者



しなやかな女踊りを披露する、赤十字奉仕団員

海外の仲間に届けます 募金箱に詰めます

「海外には、勉強をしたくてもできない子どもたちがいます。」

「文房具を贈ってあげたいので、ご協力をお願いします。」

8月のうだるような暑さに負けず、青少年赤十字（JRC）バッジを誇らしげに着けた小学校6年生11名が、元気いっぱいに1円玉街頭募金を行いました。

児童は、ひと目で内容を理解してもらえるような看板を作成したり、呼びかけに最適な短いフレーズを考えたり、お客様にわかりやすく大きな声で呼びかける練習をしました。

本番では、元気な声で遠く離れた入口のお客様を呼び込むなど、獅子奮迅の活躍でした。

また、募金してくださったお客様の目を見ながら「ありがとうございました。」と笑顔でお礼を言うと、お客様の顔も笑顔になりました。

40分ほどの活動で集まった募金は6871円にもなり、この成果がメンバーを大きく成長させてくれることでしょう。

今度は鳴門市大麻町に赤十字看板を設置



泉理彦鳴門市長や地元赤十字奉仕団員が参加して除幕式を開催し、完成を祝いました



「ご協力ありがとうございました。」と大きな声でお礼を言うJRCメンバー

あなたのいろんな“思い”を 赤十字へお寄せください

- 「お香典」、「ご祝儀」等へのお返しに替えてのご寄付
- (有功章相当額(20万円以上)のご寄付は、挨拶状等のお世話をさせていただきます。)
- 遺産のご寄付、故人の遺言によるご寄付
- 結婚記念や永年勤続記念、創立記念などの周年記念のご寄付
- 長寿のおよろこびや退院祝い、ボランティア活動などのご寄付

■ご寄付についてのお問い合わせは、

日本赤十字社徳島県支部事務局 総務課
TEL:088-631-6000まで

心温まるご寄付に感謝 社会奉仕活動の手当を寄付



ボランティア活動に励む堀江様

現在ご主人の勤務の都合で、東京都八王子市にお住まいの堀江京子様から赤十字活動に役立ててと8月16日、当支部に多額のご寄付をいただきました。

堀江様はボランティアで、八王子市青少年育成指導員として、青少年の育成活動や健全育成に尽力されていますが、その交通費等の手当でを4年間貯めて、今回ご寄付いただいたものです。

堀江様は「健康で元気に還暦を迎えたことに感謝し、その感謝の気持ちを赤十字の人道活動を通じて社会に伝えたい。」と話しています。



人間を救うのは、人間だ。 日本赤十字社 スローガン

複数回献血クラブ会員募集!!



複数回献血クラブって？

血液が不足した時、個別にメールで献血を呼びかけ、年間を通じた血液の安定確保を図るために設置されたクラブです。成分献血・400mL 献血にご協力いただける方は、ぜひモバイル会員登録をお願いします。

会員特典

- ☆もれなく記念品を差し上げます！
- ☆会員限定デザイン献血カードが発行できます！
- ☆過去の献血記録（検査成績）が携帯から確認できます！
- ☆各種イベント情報なども配信いたします！

ご登録方法

右のQRコードを読み取っていただけか、
abo@kenketsu.jpに空メールをお送りください。



※迷惑メール対策などで受信ドメイン指定をされている方は@kenketsu.jpからのメールを受信できるように設定変更をお願いいたします。

「徳島ヴォルティスVSガンバ大阪」戦 献血キャンペーンを実施しました

去る10月27日、鳴門市のポカリスエットスタジアムにて行われた「徳島ヴォルティスVSガンバ大阪」戦において、献血バスによる献血キャンペーンを実施しました。

当日は献血をしてくださった方限定にヴォルティス選手のサイン入りグッズをプレゼントしたほか、当日入場された方にも「ヴォルティス×けんけつちゃん」がコラボレーションしたオリジナルデザインのオペラグラスを配布し、訪れた多くのサポーターに献血をPRしました。

年々、少子高齢化等の影響もあり若い世代の献血者が減少しています。今後、より多くの若者に献血に関心を持っていただくため、当センターでもさまざまなキャンペーンを通じて献血してもらえるきっかけづくりに努めます。



血液のナゼ??に答えます! 夏休み親子血液ゼミナー



連日、多くの親子連れが参加しました。

将来を担う子どもたちに献血の大切さを伝えるため、徳島県赤十字血液センターにて小学生親子を対象とした「夏休み親子血液ゼミナー」を開催しました。

7月20日から28日までの期間中、85組、

計212名の親子が参加。血液の大切な役割について学んだり、血液に関するクイズを楽しんだ後、血液センター内を見学し、献血バスの内部や輸血用血液を親子で実際に見て学びました。

体験を終えた親子からは「血液の大切さがよく分かった」、「大きくなったら献血しに行きたい」などといった声が聞かれました。



けんけつちゃんみなさんのお手伝いに来てくれました♪

平成25年度 献血ポスター入賞作品発表



最優秀賞



川島高校2年
岡本 真衣さん

優秀賞



江原中学校3年
秦 真生子さん



三加茂中学校1年
備 天夢さん



加茂名中学校3年
佐竹 真衣さん



池田中学校3年
瀧口 歩さん



国府中学校2年
美馬 亜弥音さん



阿波中学校3年
中野 友莉恵さん

<日本赤十字社徳島県支部管内の赤十字施設をご案内します>

- ・日本赤十字社徳島県支部事務局 徳島市庄町3丁目12-1 TEL:088-631-6000
- ・徳島赤十字病院 小松島市小松島町字井利ノロ103 TEL:0885-32-2555
- ・徳島赤十字ひのみね総合療育センター 小松島市中田町新開4-1 TEL:0885-32-0903
- ・徳島県赤十字血液センター 徳島市庄町3丁目12-1 TEL:088-631-3200
- ・徳島赤十字乳児院 小松島市中田町新開2-2 TEL:0885-32-0555